

入選

阿久津 伶奈 (あくつ ねな) 由木中央小 6年生

作品名：夢は楽しい、光は楽しい

図 書：真夜中プリズム

昼空にはまぶしくて温かいお日様が、夜空にはキラキラ輝く星があります。そうです。空にはずっと光があるのです。

そして、どんな光よりも輝いている光、それは、この本の主人公にとっては陸上でした。主人公の篠崎昂は、事故によりその光をなくしてしまいます。ある日、星が好きな少年、宮野真夏が現れ、新しい光を見つけるという物語です。

私にとっての光は、飼い犬のコロンです。コロンが来てくれたおかげで私は動物が好きになったし、思いやりを持てるようになりました。また、家の中が明るく、笑顔が多くなりました。

このような光をだれもが持っていると思います。その光はなくなったとしても、また見つけることができる、世界が輝く方法はたった一つではないと教えてくれる物語です。

私がお気に入りの場面は、グラウンドのはしで昂と真夏で百 m 走をする場面です。久しぶりに走って、陸上をやっていたときと同じ気持ちになっていることが伝わってきたからです。また、楽しそうに走っている様子が思い浮かんで心に残りました。

私は、この本を書いた沖田円さんの「神様の願いごと」という本も読んだことがあって、どちらの作品も風景や気持ちがよく伝わってきて、心の奥にスッと入っていくように読めます。また、沖田円さんの本は、大切なことが人物の会話の中に入っているのも、とても分かりやすく学べます。そして、この本では、昂目線の場面と真夏日線の場面があるので、おたがいがどのように思っているのか、感じているのか伝わってきます。

私は今まで、夢はあきらめなければ絶対にかなう、夢をあきらめてはいけない、あきらめたら終わり、とばかり思っていました。

けれど、この本は

「本当にダメになったら、つらくなったらあきらめていいんだよ」

とってくれるようでした。あきらめたとしても、光が消えたとしても、またつくり直せばいい、たどってきた道をもどって、またスタートしてもいいと教えてくれました。自分をつらくさせ、苦しくさせることでかなう夢も

あるかも知れないけれど、楽しく夢を見たいと思いました。

かなったときに、「つらかったな」「苦しかったな」と思うのではなく、「た
くさんのことを学べたな」「またがんばりたいな」と思えるように、夢を楽し
みたい、そう思えました。

はじめから終わりまで、学べることがたくさんあって、自然と笑顔になれる
ような本です。また、元気がでる本なので
「ぜひ、読んでみて下さい！」